



リリース・ノート

Adaptive Server[®] Enterprise
15.7 ESD #2

Linux

ドキュメント ID：DC79153-01-1572-01

改訂：2012年7月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

IBM および Tivoli は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

製品の概要	1
Adaptive Server の相互運用性	1
製品の互換性	7
Replication Server とのパスワードの互換性	7
ロー内 LOB カラムの複写	7
既存のアプリケーションに影響する可能性のある変更	7
Sybase Central に対する変更	8
Backup Server および IBM Tivoli Storage Manager	8
Open Client/Server	8
コマンド・ライン・バージョンの ddlgen	9
圧縮 LOB カラムの複写	9
変更された機能	9
db2 サーバ・クラスのサポート	9
細密なパーミッションに対する複写管理サポート	9
15.7 ESD #2 SAP ERP 顧客向けの計画共有の推奨	10
インストールおよび設定	10
特別なインストール手順	10
特別なライセンスの指示	12
SySAM ライセンスのチェックアウト	12
SySAM で Adaptive Server Small Business Edition のライセンスのチェックアウトに失敗する	12
サブキャパシティ・ライセンス	13
設定で特に留意する点	15
EPEP アルゴリズムを使用するクライアント用に Adaptive Server を設定する	15
特別なアップグレードとダウングレードの指示	15

特別なダウングレードの指示	16
旧バージョンへのデータベース・ダンプの ロード	17
アップグレード後の TIPSA のフラグ 0x4000 エ ラー	17
Adaptive Server のインストールに関する既知の問題	17
Adaptive Server の既知の問題	21
マニュアルの変更点	28
追加の説明や情報の入手	29
サポート・センタ	30
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロー ド	30
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認	31
MySybase プロファイルの作成	31
アクセシビリティ機能	31

製品の概要

このリリース・ノートでは、Adaptive Server® Enterprise バージョン 15.7 ESD #2 に関する最新の情報を提供します。最新バージョンは Web で入手できます。

Adaptive Server Enterprise のサーバ・コンポーネントとクライアント・コンポーネントは、別々の CD または DVD に収められています。

インストール・キット

インストール・キットには、次のものが含まれています。

- サーバのメディア (CD または DVD)
- PC-Client メディア
- 使用しているプラットフォーム固有の下記のマニュアルが収められた Getting Started メディア。
 - インストール・ガイド
 - リリース・ノート (このマニュアル)

Adaptive Server の相互運用性

異なるプラットフォーム、バージョン、およびクライアント製品における他の Sybase® 製品と Adaptive Server の相互運用性について説明します。

ビッグ・エンディアン・プラットフォームとリトル・エンディアン・プラットフォーム間の相互運用性が検証されています。Windows、Linux x86-32、Linux x86-64、Sun Solaris x86-32、および Sun Solaris x86-64 は、リトル・エンディアンのプラットフォームです。IBM AIX、Linux on Power、Sun Solaris SPARC、および Itanium 版 HP-UX は、ビッグ・エンディアンのプラットフォームです。

注意： Adaptive Server の新しい機能を使用するためには、使用しているクライアントでその機能がサポートされていることを確認してください。使用しているクライアントでサポートされる機能については、クライアント固有のマニュアルを参照してください。Adaptive Server の特定の機能を使用するためには、クライアントのアップグレードが必要になることがあります。

表 1 : Adaptive Server でサポートされているクライアント・プラットフォーム

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
Open Client™/Open Server™	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • AIX 32 ビット版 • AIX 64 ビット版 • HP-UX IA 32 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x86 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Linux Pseries 32 ビット版 • Linux Pseries 64 ビット版 • Solaris 32 ビット版 • Solaris 64 ビット版 • Solaris x86 32 ビット版 • Solaris x86 64 ビット版 • Windows x86 32 ビット版 • Windows x86 64 ビット版

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
	15.5	<ul style="list-style-type: none">• AIX 32 ビット版• AIX 64 ビット版• HP-UX 32 ビット版• HP-UX 64 ビット版• HP-UX IA 32 ビット版• HP-UX IA 64 ビット版• Linux x86 32 ビット版• Linux x64 64 ビット版• Linux Pseries 32 ビット版• Linux Pseries 64 ビット版• Solaris 32 ビット版• Solaris 64 ビット版• Solaris x86 32 ビット版• Solaris x86 64 ビット版• Mac OS X Intel 32 ビット版• Windows x86 32 ビット版• Windows x86 64 ビット版
Adaptive Server Enterprise Python 用拡張モジュール	15.7	<ul style="list-style-type: none">• AIX 64 ビット版• HP-UX IA 64 ビット版• Linux x64 64 ビット版• Linux Pseries 64 ビット版• Solaris 64 ビット版• Solaris x86 64 ビット版• Windows x86 64 ビット版

製品の概要

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
Adaptive Server Enterprise PHP 用拡張モジュール	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • AIX 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Linux Pseries 64 ビット版 • Solaris 64 ビット版 • Solaris x86 64 ビット版 • Windows x86 64 ビット版
Adaptive Server Enterprise PERL 用データベース・ドライバ	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • AIX 32 ビット版 • HP-UX IA 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Linux Pseries 32 ビット版 • Solaris 32 ビット版 • Solaris x86 32 ビット版 • Windows x86 64 ビット版
jConnect™ for JDBC™	6.0.x、7.0.x	<ul style="list-style-type: none"> • すべてのプラットフォーム
Sybase で提供される ODBC	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • Linux x86 32 ビット版 • Linux x64 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • AIX 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux Pseries 64 ビット版 • Solaris 64 ビット版 • Solaris x86 64 ビット版 • Windows x86 32 ビット版 • Windows x64 32 ビット版 • Windows x64 64 ビット版

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
	15.5.x	<ul style="list-style-type: none"> • Linux x86 32 ビット版 • Linux x64 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Mac OS X Intel 32 ビット版 • Windows x86 32 ビット版 • Windows x64 32 ビット版 • Windows x64 64 ビット版
Sybase で提供される OLE DB	15.7、 15.5.x	<ul style="list-style-type: none"> • Windows x86 32 ビット版 • Windows x64 32 ビット版 • Windows x64 64 ビット版
ADO.NET	2.x、 4.x	<ul style="list-style-type: none"> • Windows x86 32 ビット版 • Windows x64 32 ビット版 • Windows x64 64 ビット版
Replication Server [®]	15.5, 15.6	<ul style="list-style-type: none"> • IBM AIX POWER 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x86 32 ビット版 • Linux x86-64 64 ビット版 • Linux on POWER 64 ビット版 • Sun Solaris SPARC 64 ビット版 • Sun Solaris x86-64 64 ビット版 • Microsoft Windows x86 32 ビット版 • Microsoft Windows x86-64 64 ビット版

製品の概要

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
	15.2	<ul style="list-style-type: none"> • IBM AIX POWER 32 ビット版 • IBM AIX POWER 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x86 32 ビット版 • Linux x86 64 ビット版 • Linux on POWER 64 ビット版 • Sun Solaris SPARC 32 ビット版 • Sun Solaris SPARC 64 ビット版 • Microsoft Windows x86 32 ビット版 • Microsoft Windows x86 64 ビット版
Replication Manager プラグイン	15.5, 15.6	<ul style="list-style-type: none"> • IBM AIX POWER 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x86 32 ビット版 • Linux x86 64 ビット版 • Linux on POWER 64 ビット版 • Sun Solaris SPARC 64 ビット版 • Sun Solaris x86 64 ビット版 • Microsoft Windows x86 32 ビット版 • Microsoft Windows x86 64 ビット版
	15.2	<ul style="list-style-type: none"> • IBM AIX POWER 32 ビット版 • IBM AIX POWER 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x86 32 ビット版 • Linux x86 64 ビット版 • Linux on POWER 64 ビット版 • Sun Solaris SPARC 32 ビット版 • Sun Solaris SPARC 64 ビット版 • Microsoft Windows x86 32 ビット版 • Microsoft Windows x86 64 ビット版

注意： Adaptive Server は、Sybase Control Center 3.2.7 でのみサポートされています。

製品の互換性

Adaptive Server の互換性について説明します。

Replication Server とのパスワードの互換性

Adaptive Server の異なるバージョン間で、ロールおよびログインの複写に関する互換性の問題があります。

allow password downgrade が 1 に設定されていると、パスワードのダウングレード期間中にのみ、Adaptive Server バージョン 15.0.2 以降から以前のサーバ・バージョンに、ログインを複写できます。

パスワードを使用しても、ロールは Adaptive Server 15.7 以降から以前のサーバ・バージョンに複写できません。

ロー内 LOB カラムの複写

Adaptive Server 15.7 でロー内 LOB カラムを複写するセマンティックおよびインタフェースは、15.7 より前のバージョンの LOB カラムのものと同じです。

複写のためのロー内 LOB カラムをマークするには、次を使用します。

```
sp_setrepcol table_name [, {column_name | null} [,  
{do_not_replicate | always_replicate |  
replicate_if_changed}]] [, use_index]
```

また、プライマリ・データベースでロー内 LOB カラムを複写するとき、複写されたデータベースおよび複写されたテーブルの設定によっては、ロー内またはロー外でデータを格納できます。たとえば、プライマリでより複写でのほうがページ・サイズが小さい場合、複写テーブルのロー・サイズはより小さくなり、複写 LOB はロー内に合いません。したがって、プライマリのロー内の値は、複写でロー外の LOB 値として複写される場合があります。

既存のアプリケーションに影響する可能性のある変更

既存のアプリケーションに影響する可能性のある Adaptive Server 15.7 の変更について説明します。

Sybase Central に対する変更

Sybase Central ASE プラグインは、Adaptive Server のインストール・イメージに含まれなくなりました。Adaptive Server 15.7 ESD#2 の管理には、Sybase Control Center 3.2.7 を使用します。

Sybase Central はサポートされなくなりました。ただし、必要に応じて、<http://www.sybase.com/downloads> サイトにアクセスし、[Maintenance Releases and Bug Fixes (EFBs)] をクリックすることによって、Sybase Central プラグインをダウンロードできます。

Backup Server および IBM Tivoli Storage Manager

IBM® Tivoli® Storage Manager に対するダンプおよびロードにはローカルのバックアップ・サーバを使用します。リモート・バックアップ・サーバは使用できません。

IBM Tivoli Storage Manager は、ローカル・バックアップ・サーバではないホスト・マシンで設定できます。

Open Client/Server

Open Client と Open Server に影響する変更の詳細については、Sybase Web サイトでこれらの製品の最新の『リリース・ノート』を参照してください。

新しい機能に関する情報については、『新機能ガイド Open Server 15.7 および SDK 15.7 Windows、Linux および UNIX 版』を参照してください。

Adaptive Server 拡張モジュールおよびドライバ

PHP と Python 用拡張モジュール、および Perl 用データベース・ドライバを使用すると、開発者は Adaptive Server のデータベースに対してクエリを実行できます。

PHP と Python 用拡張モジュールおよび Perl 用データベース・ドライバの詳細については、以下を参照してください。

- 『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』
- 『PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』
- 『Perl 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド』

インストールの手順については、『Software Developer's Kit/Open Server インストール・ガイド』を参照してください。

コマンド・ライン・バージョンの **ddlgen**

コマンド・ライン・バージョンの **ddlgen** 場所が変更されました。

15.7 ESD #1 以前のバージョンの Adaptive Server では、コマンド・ライン・バージョンの **ddlgen** は次の場所にありました。

- Unix - \$SYBASE/ASEP/bin
- Windows - %SYBASE%\ASEP\bin

15.7 ESD #2 以降のバージョンの Adaptive Server では、**ddlgen** は次の場所にありません。

- Unix - \$SYBASE/ASE-15_0/bin
- Windows - %SYBASE%\ASE-15_0\bin

圧縮 LOB カラムの複写

Adaptive Server 15.7 ESD #1 以降および Replication Server 15.7.1 以降でのみ、圧縮 LOB カラムの複写がサポートされています。Adaptive Server からのルート内のすべての中間 Replication Server もバージョン 15.7.1 以降でなければなりません。

変更された機能

Adaptive Server バージョン 15.7 での最新の機能の変更点について説明します。

db2 サーバ・クラスのサポート

注意 Adaptive Server はサーバ・クラス db2 をサポートしていません。

db2 を使用するには、**db2** サーバ・クラスを **direct_connect** クラスにマイグレートしてください。

細密なパーミッションに対する複写管理サポート

複写管理では、細密なパーミッション機能はサポートされていません。

細密なパーミッションは、サイト固有の役割を作成したり、システム管理者およびデータベース所有者がユーザ・データにアクセスできないようにしたりすることを可能にするもので、Adaptive Server 15.7 ESD #2 で導入されました。細密なパーミッションは現在、Replication Server ではサポートされていません。つまり、システムに関連する次のストアド・プロシージャでサポートされています。

インストールおよび設定

- `sp_config_rep_agent`
- `sp_help_rep_agent`
- `sp_reptostandby`
- `sp_setrep`
- `sp_start_rep_agent`
- `sp_stop_rep_agent`
- `sp_setrepcol`
- `sp_setrepdb`
- `sp_setrepdbmode`
- `sp_setrepdefmode`
- `sp_setreplicate`
- `sp_setrepproc`
- `sp_setreptable`

15.7 ESD #2 SAP ERP 顧客向けの計画共有の推奨

SAP® ERP 顧客向けの、Adaptive Server 15.7 ESD #2 の計画共有機能の無効化

計画共有機能は、デフォルトでは無効です。これは、設定オプション **enable functionality group** がオンにされると自動的に有効化されます。計画共有機能は、次のバージョン更新が実施されるまで無効にしておくことをおすすめします。**enable functionality group** がオンになっている SAP ERP インストールでは、次を使用して計画共有機能をオフにすることができます。

```
sp_configure 'enable plan sharing', 0
```

インストールおよび設定

インストール、設定、アップグレード、およびダウングレードに関する『インストール・ガイド』への追加、または重要事項の最新情報を示します。

特別なインストール手順

このバージョンの Adaptive Server の特別なインストールの指示について説明します。

ASE プラグインのインストール

Adaptive Server の上に ASE プラグインをインストールする前に、Adaptive Server を停止しておきます。サーバを停止しないと、インストールが失敗します。ログ・

ファイルのエントリには、JRE7ファイルが開いているため、このファイルを上書きしようとしたときに問題が発生したことが記述されます。

PC クライアントのインストール

autorun を実行して PC クライアントをインストールすると、エラーが発生し、32 ビットの PC クライアントが配置されている場所に 64 ビットの PC クライアントをインストールしようとしていることが記述されます。この問題を回避するには、**pcclient32** サブディレクトリの中にある **setup.exe** を実行して、PC クライアントをインストールします。

Adaptive Server プラグインのインストール

Adaptive Server とそれに関連付けられたすべてのプラグインは、同じ場所にインストールします。

サイレント・インストールの場合の応答ファイルに対する修正

Adaptive Server 15.7 ESD#2 のインストーラでは、Adaptive Server の sa ログイン、および Sybase Control Center の uafadmin ログインと sccadmin ログインについて、6 文字以上の NULL 以外のパスワードが必要です。

応答ファイルを使用して Adaptive Server のサイレント・インストールを実行する場合には、その応答ファイルには次の行を追加指定する必要があります。

```
SY_CFG_ASE_PASSWORD=<ASE sa password>
```

```
CONFIG_SCC_CSI_SCCADMIN_PWD=<Sybase Control Center admin password>
```

```
CONFIG_SCC_CSI_UAFADMIN_PWD=<Sybase Control Center agent admin password>
```

sccadmin ログインと uafadmin ログインのパスワードは、sa ログインのパスワードと同じでなくてもかまいません。

他の Sybase ソフトウェアと ECDA (Enterprise Connect Data Access) または MainframeConnect DirectConnect for z/OS のインストール

ECDA DirectConnect オプションまたは MainframeConnect™ DirectConnect™ for z/OS (DirectConnect Manager を含む) は、専用のディレクトリにインストールすることを強くおすすめします。

参照：

- Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード (30 ページ)

特別なライセンスの指示

このバージョンの Adaptive Server の特別なライセンスの指示について説明します。

SySAM ライセンスのチェックアウト

以前のリリースでは、プロセッサごとのライセンス・タイプを使用して Adaptive Server がライセンスされた場合、ライセンス数は起動時に決定されていました。

このリリースでは、Adaptive Server は使用できるプロセッサの数を定期的にチェックして、増加した場合は追加のライセンスのチェックアウトを試行します。この期間内に追加のライセンスが使用可能にならない場合は、30 日後に Adaptive Server がシャットダウンします。ライセンスの猶予の詳細については、SySAM ユーザーズ・ガイド を参照してください。

SySAM で Adaptive Server Small Business Edition のライセンスのチェックアウトに失敗する

Adaptive Server の Small Business Edition を使用する特定の状況下では、Adaptive Server をインストールできないか、Adaptive Server が仮想環境で起動しません。

これが発生した場合、Adaptive Server は次のようなエラーをレポートします。

この仮想マシン内からマシンのプロセッサ・コアの合計数を決定できません。ASE_CORE ("CH") のライセンス・タイプでは、2 個以上のプロセッサ・チップがあるマシンでの使用は禁止されています。仮想システムがこの個数未満のプロセッサ・コアを使用するように制限されているかどうかは関係ありません。インストーラを実行する前に、物理マシン (または仮想マシン/パーティション制御ドメイン) で 'sysamcap' コマンドを実行し、報告された環境変数を設定する必要があります。

このエラーは次の場合に発生します。

- Adaptive Server が、物理マシンのプロセッサ数へのアクセス権を持っていない仮想システム上で実行されている (これは AIX LPAR および HP-UX vPar 以外のすべての仮想環境に適用されます)。
- Adaptive Server が、特定数以下のプロセッサを持つマシンに使用が制限されるライセンス・タイプを使用している。たとえば、Adaptive Server Enterprise Small Business Edition を 2 つ以上のプロセッサ・チップを持つマシンで使用することはできません。

対処方法:

1. **sysamcap machine** 物理マシンまたは仮想化テクノロジーのコントロール・ドメイン (VMware ESX コンソール、XEN dom0 など) でコマンドを実行します。

2. 製品または製品インストーラを実行する前に、レポートされた環境変数を設定します。

詳細については、『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティ・ライセンス」の項を参照してください。

サブキャパシティ・ライセンス

このバージョンの Adaptive Server のサブキャパシティ・ライセンスについて説明します。

Sybase は現在 Sybase IQ Enterprise Edition および Adaptive Server Enterprise Edition 向けのサブキャパシティ・ライセンス・オプションを提供しています。サブキャパシティ・ライセンスは、物理マシンで利用可能な CPU のサブセット上にある Sybase 製品のライセンスを意味します。

プラットフォームのサポート

表 2 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション
	Integrity Virtual Machines およびリソース・マネージャ		仮想マシン
	セキュア・リソース・パーティション		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1、AIX 7	仮想パーティション
	dLPAR		仮想パーティション
Sun	動的システム・ドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ/ゾーン および Solaris リソース・マネージャ		仮想パーティション

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
	Sun 論理ドメイン (LDOM)		仮想パーティション
Intel、AMD	VMWare ESX Server* ゲスト OS : Windows	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0 および ESX 4.1、ESXi4.1、ESXi 5.0、Guest OS:Windows 2008 R2、Windows 7	仮想マシン
	VMWare ESX Server ゲスト OS: Linux、Sun Solaris x64	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0 および ESX 4.1、ESXi4.1、ESXi 5.0、Guest OS:RH 5.5、SuSE 11、Sun Solaris x64	仮想マシン
	Xen**、KVM、DomainU:Windows	Windows 2008 R2、Windows 7	仮想マシン
	Xen、KVM、DomainU:Linux	RH 5.5、SuSe 11	仮想マシン
	Hyper-V	Windows 2008 R2	仮想マシン

* VMWare Workstation および VMWare Server は、VMWare ESX Server に含まれません。

** Xen に Sun Solaris x64 は含まれません。

Sybase サブキャパシティ・ライセンスの有効化

サブキャパシティ・ライセンスを有効にするには、事前に Sybase とのサブキャパシティ・ライセンス契約が必要になります。Sybase の他のライセンスと同様に、ライセンス・キーを生成する必要があります。具体的な手順については、『SySAM クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

注意： ライセンス・サーバを最新の状態に保ってください。

インストール・メディアには最新の SySAM ライセンス・サーバのコピーが含まれますが、メンテナンス・リリースとバグ修正 (Emergency Bug Fixes: EBF) のリンク (<http://www.sybase.com/support>) で定期的にライセンス・サーバの更新をチェックすることをおすすめします。「追加の説明や情報の入手」(29 ページ)を参照してください。

設定で特に留意する点

このバージョンの Adaptive Server の特別な設定を示します。

EPEP アルゴリズムを使用するクライアント用に Adaptive Server を設定する

Adaptive Server は、**sp_configure** を使用する Extended Plus Encrypted Password (EPEP) ログイン・プロトコルを必要とするように設定できます。

sp_configure 'net password encryption reqd' に他の値が追加され、このサーバでは、EPEP アルゴリズムを使用している着信クライアントのみが許可されることが示されます。

設定パラメータ **net password encryption reqd** は 3 という値をサポートしており、この値は、このサーバでは、EPEP ログイン・プロトコルを使用している着信クライアントのみが許可されることが示されます。この値が 0、1、および 2 の場合も、EPEP ログイン・プロトコルをサポートするクライアントが、EPEP ログイン・プロトコルを実装した Adaptive Server と共に使用しようとしたときに、EPEP ログイン・プロトコルを使用できます。

この値を 2 または 3 に設定すると、このプロトコルを使用した最大設定接続をサポートするために、ネットワーク・メモリが増やされます。EPEP によって使用されるネットワーク・メモリ・プールに、より多くのメモリを動的に追加するには、**additional network memory** 設定パラメータを使用します。値を 3 に設定すると、KPP ハンドラは sleep ステータスになります。これは、すべての接続に新規の RSA キー・ペアを提供する必要がないためです。KPP ハンドラのステータスを調べるには、**sp_who** コマンドを使用できます。

注意： Adaptive Server では、RSA 非対称暗号化を使用する 2 つのバージョンのログイン・プロトコルがサポートされています。詳細については、『システム管理ガイド』の「ネットワーク上でのログイン・パスワードの保護」を参照してください。

特別なアップグレードとダウングレードの指示

Adaptive Server のさまざまなバージョンのアップグレード、ダウングレード、移行のための最新の情報を説明をします。

特別なダウングレードの指示

このバージョンの Adaptive Server の特別なダウングレード指示について学習してください。

`sp_downgrade_esd` を使用して、Adaptive Server 15.7 ESD #2 から、15.7 と 15.7 ESD#1 のいずれかにダウングレードします。

Adaptive Server 15.7 ESD #2 から、15.7 と 15.7 ESD#1 のいずれかにダウングレードする場合は、`sp_downgrade` システム・プロシージャを使用しないでください。代わりに `sp_downgrade_esd` を使用して、両方の Adaptive Server、および 15.7 ESD #2 にアップグレードした可能性のある任意のデータベースをダウングレードします。使用しているプラットフォームのインストール・ガイドにおける「Adaptive Server 15.7 以前のバージョンへのダウングレード」を参照してください。

`sp_downgrade_esd` を使用しても、ロー内の LOB 圧縮向けに設計されたテーブルはチェックされません

Adaptive Server 15.7 ESD #2 から 15.7 ESD #1 と 15.7 のいずれかにダウングレードしている場合は、`sp_downgrade_esd` を使用しても、ロー内の LOB カラムのあるテーブルに対してデータ圧縮と LOB 圧縮が有効になっていると、テーブルはチェックされません。

対処方法: 各データベースに対して次のクエリを手動で実行し、ロー内の LOB 圧縮テーブルがないかチェックします。このクエリでは、ロー内の LOB 圧縮向けに設計されたテーブルの名前が報告されます。

```
select distinct convert(varchar(39), o.name) as 'check these tables'
from syscolumns c, sysobjects o, syspartitions p
where o.id = c.id and o.id = p.id
and (o.sysstat3 & 28672 != 0
     or (p.ptndcompver is not null and p.ptndcompver > 0))
and ((c.lobcomp_lvl is not null and c.status2 & 131072 = 0)
     or ((o.lobcomp_lvl is not null and o.lobcomp_lvl > 0)
         or (o.sysstat3 & 2048 != 0))
     or (p.lobcomp_lvl is not null and p.lobcomp_lvl > 0))
and (c.inrowlen is not null) and (c.inrowlen > 0)
go
```

注意: ロー内の LOB 圧縮テーブルをダウングレードするための正しい手順としては、`alter table` を使用して `set compression = none` を行い、ダウングレード前に各テーブルに対して `reorg rebuild` を実行します。

旧バージョンへのデータベース・ダンプのロード

このバージョンの Adaptive Server にデータベースをダンプし、Adaptive Server の以前の (15.x) バージョンを実行しているサーバのデータベースにこのダンプをロードすることはできません。

アップグレード後の TIPSA のフラグ 0x4000 エラー

TIPSA のフラグ 0x4000 は、15.7 より前のバージョンの Adaptive Server に設定されています。Adaptive Server 15.7 へのアップグレード後、このフラグが原因となって予期しないエラーが発生する場合があります。

TIPSA の 0x4000 フラグは、Adaptive Server 15.7 の LOB 圧縮機能によって使用されます。Adaptive Server 15.7 へのアップグレード後、このフラグが設定された LOB カラムは、圧縮された LOB カラムとして誤って扱われるため、予期しないエラーが発生します。Adaptive Server 15.7 へのアップグレード後、次のコマンドを使用してフラグの問題を解決します。

```
dbcc rebuild_text()
```

Adaptive Server のインストールに関する既知の問題

インストーラに関してすでにわかっている問題と対処方法について説明します。既知の問題は、変更要求 (CR) 番号が降順に挙げられています。

CR #	説明
709431	<p>ASE 15.7 ESD#2 に RS 15.7.1 をインストールしたら、SAMPLE_RS を作成できなくなった</p> <p>Adaptive Server 15.7 ESD #2 と Replication Server 15.7.1 が同じディレクトリにインストールされていると、サンプルの Replication Server の作成は失敗します。</p> <p>対処方法: Replication Server と Adaptive Server は、同じディレクトリにインストールしないでください。</p>

CR #	説明
706268	<p>RMP 15.7.1 に Adaptive Server 15.7 ESD #2 をインストールしたら、RMP をロードできなくなった</p> <p>RMP 15.7.1 に Adaptive Server がインストールされていると、Sybase Central の起動時にエラーが生成され、RMP が正常に起動されておらず、ロードできないことが示されます。</p> <p>対処方法: Sybase Central を起動する前に、SYBASE {csh env sh} ファイルに設定されている SYBASE_JRE7 環境変数の設定を、次のようにして解除します。</p> <p>C シェルの場合: (SYBASE.csh) : unsetenv SYBASE_JRE7</p> <p>Bourne シェルの場合: (SYBASE.sh) :</p> <pre>SYBASE_JRE7= export SYBASE_JRE7</pre> <p>Bash(?) シェルの場合: (SYBASE.env) : SYBASE_JRE7=</p>
692496	<p>tempdb デバイスの HA 用設定</p> <p>HA 設定で使用されるように Adaptive Server をインストールするときには、tempdbdev 論理デバイスのデバイス名が重複しているために、sp_companion スタート・プロシージャの configure コマンドが失敗する場合があります。</p> <p>対処方法: ASE のインストール中にセカンダリ・サーバを設定するとき、"tempdb デバイス"を指定しないでください(このフィールドの値を空白に設定してください)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • いずれかのサーバで tempdb の追加領域が必要な場合は、インストールの完了後にこのサーバにログインし、alter database コマンドを使用して tempdb のサイズを増やします。 • tempdb データベースを割り当てるために追加のディスク領域が必要な場合は、disk init コマンドを使用して tempdb のデータベース・デバイスを新規作成します。 • デバイスが新規作成された場合、デバイスの論理名は 2つのサーバ間でユニークにする必要があります。

CR #	説明
688101	<p>Adaptive Server 15.7 をアンインストールした後で、Sybase IQ 15.4 の Sybase Central を起動することはできません。</p> <p>Adaptive Server Enterprise 15.7 と Sybase IQ 15.4 を同じディレクトリにインストールしてから Adaptive Server をアンインストールすると、IQ の Sybase Central を起動できません。Adaptive Server のアンインストールによって共有ファイルが削除されたために、この問題が発生します。</p> <p>対処方法: IQ 15.4 とともにインストールされたバージョンの Sybase Central を、Adaptive Server 15.7 のアンインストール後に起動できない場合は、次の対処方法を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. \$SYBASE/shared/JavaHelp-2_0 のディレクトリ JavaHelp-2_0 を、必要に応じて再作成します。 2. \$SYBASE/IQ-15_4/java/jh.jar ファイルを \$SYBASE/shared/JavaHelp-2_0 ディレクトリにコピーします。 3. 必要に応じて、IQ プラグインを SC にリロードまたは登録します。
683486	<p>Adaptive Server 15.7 の上に RMP 15.2 および RMP 15.7 をインストールすると、Sybase Central の DBISQL は使用できなくなります。</p> <p>対処方法: DBISQL を起動できるようにするには、scjview.sh java 引数に次を追加します。</p> <pre>-Disql.repositoryDirectory="\$SYBROOT/DBISQL/bin"</pre> <hr/> <p>注意: 場合によっては、ディレクトリ・パスを囲む際には一重引用符を使用します。一重と二重いずれの引用符を使用するかを判断するには、既存のファイルを確認してください。</p>
678912	<p>Adaptive Server 15.7 の上に RMP をインストールすると、Sybase Central の DBISQL は使用できなくなります。</p> <p>対処方法: DBISQL を起動できるようにするには、scjview.sh java 引数に次を追加します。</p> <pre>-Disql.repositoryDirectory='\$SYBROOT/DBISQL/bin'</pre>
671351	<p>Adaptive Server 15.7 を Replication Agent™ 15.2 の上にインストールすると、SySAM エラーになります。</p> <p>対処方法: Adaptive Server 15.7 をインストールする前に、書き込みパーミッションが含まれるよう SySAM ファイルパーミッションを修正します。</p>

CR #	説明
625837	<p>IBM 論理パーティション上の異なる Linux PowerPC オペレーティング・システムでマシンレベルのライセンスを共有できない。</p> <p>IBM 論理パーティション上の Linux PowerPC 用のマシン ID は、仮想マシンの MAC アドレスであり、これは、IBM 論理パーティション上の Linux 用のユニークなマシン ID を SySAM が識別できないという意味です。</p> <p>対処方法: なし。異なるオペレーティング・システム間でマシン・ライセンスを共有することはできません。</p>
592553	<p>Linux で、中国語、日本語、韓国語でインストーラを実行するには、これらの RPM パッケージの 1 つをインストールする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RedHat 5.x: <ul style="list-style-type: none"> • 中国語フォント • 日本語フォント • 韓国語フォント • SuSE 10.x: <ul style="list-style-type: none"> • ttf-founder-traditional (繁体字中国語) • sazanami-fonts (日本語) • baekmuk-ttf (韓国語)
590282	<p>[Tab] キーおよび矢印キーを使用して、インストールまたはアンインストール・プログラムの [製品機能を選択します] ウィンドウを操作できない。</p> <p>対処方法: マウスを使用して、[インストール] ウィンドウまたは [アンインストール] ウィンドウをクリックします。そうすることで、ウィンドウにフォーカスが移され、キーボードを使用して操作できるようになります。</p>
589483	<p>df コマンドが応答なくなると、インストーラも [プリインストールの要約] ウィンドウ枠が表示される前に応答なくなります。</p> <p>対処方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題が発生した可能性のあるネットワーク・ファイル・システム (NFS) マウントを特定します。 <pre>strace -e statfs, statfs64 df</pre> 2. umount コマンドを使用して、特定された NFS マウントのマウントを解除します。 <pre>umount -l <path></pre> 3. 応答を停止する NFS マウントがなくなるまで、上記の手順を繰り返します。 <p>umount コマンドには root パーミッションが必要です。umount コマンドで NFS をマウント解除する場合は、マシンの再起動が必要になることがあります。</p>

CR #	説明
588793	<p>InstallShield Multiplatform でインストールされた古いディレクトリに Install Anywhere を使用する Adaptive Server 15.5 以降のバージョンをインストールすると、非互換性の問題が発生する可能性があります。</p> <p>これらの問題は、別々のインストーラ手法でインストールされた製品を使用している場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Install Anywhere または InstallShield Multiplatform を使用する製品を、他のインストーラを使用してインストールされた製品の上にインストールすると、両方のインストーラに含まれている同名のファイルは、後からインストールした方のファイルで上書きされ、そのことはユーザに知らされません。 • Install Anywhere と InstallShield Multiplatform いずれかの uninstaller を実行すると、両方のインストーラによってインストールされた同名のファイルは削除され、メッセージは一切示されません。 <p>対処方法: Install Anywhere を使用する製品と InstallShield Multiplatform を使用する製品は、同じディレクトリにインストールしないでください。</p>
586169	<p>インストーラを成功させるには、マシンに gzip をインストールする必要があります。</p> <p>インストーラによって、次のように報告されます。</p> <pre>gzip: Not Found</pre> <p>対処方法: マシンに gzip をインストールして、これがパスに含まれるようにします。</p>
583979	<p>サイレント・モードでインストールするときに、インストーラが、応答ファイルで指定されている機能名を検証しません。</p> <p>対処方法: 指定されている機能名が正しいことを確認します。</p>

Adaptive Server の既知の問題

Adaptive Server に関する既知の問題とその対処方法について説明します。既知の問題は、変更要求 (CR) 番号が降順に挙げられています。

システム問題のレポートである SPR (System Problem Report) と、修正済みの問題のレポートである CPR (Closed Problem Report) は、Adaptive Server Enterprise に含まれなくなりました。解決済みの問題については Web サイトで検索できます。

[Support] > [Services] > [Solved Cases] をクリックしてください。

Adaptive Server の既知の問題

CR #	説明
714061	<p>online reorg rebuild</p> <p>online reorg rebuild コマンドの実行後、systabstats テーブルの <i>forwrowcnt</i> カラムにおいて転送されるローの数がゼロ設定されません。</p> <p>対処方法: テーブル上で、online reorg rebuild の実行後に update statistics を実行します。</p> <p>の実行後、systabstats テーブルの <i>forwrowcnt</i> カラムが変化しない</p>

CR #	説明
713855	<p>sybmigrate を使用して Adaptive Server のバージョン 12.5.4 から 15.0 をバージョン 15.7 ESD #2 に移行すると、例外が発生する</p> <p>ソース・サーバの sysusers テーブルに存在している役割とターゲット・サーバの sysusers テーブルに存在している役割の間に整合性がないため、例外が発生します。</p> <p>対処方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソース・サーバとターゲット・サーバで次のクエリを実行します。 <pre>select u.* from sysusers u, sysssrvroles r where u.name = r.name and r.srid < 31 order by u.uid</pre> 2. ソース・サーバとターゲット・サーバから得られた上記のクエリの結果を比較します。 3. ソース・サーバで、クエリから返されたローを master.dbo.sysusers テーブルに挿入します。これらのローに含まれるサーバの役割は、ターゲットの sysusers テーブルには存在していますが、ソースの sysusers テーブルには存在していません。 4. sybmigrate -m setup を実行します。 5. 手順3で挿入したものと同一ローを、ソースの master.dbo.sysusers から削除します。 <p>たとえば、Adaptive Server 15.0 から Adaptive Server 15.7 ESD #2 に移行するとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソース・サーバとターゲット・サーバで次のクエリを実行します。 <pre>select u.* from sysusers u, sysssrvroles r where u.name = r.name and r.srid < 31 order by u.uid</pre> このクエリは、ソースの master.dbo.sysusers テーブルに1つのロー (-2, 16398, 16398, 'keycustodian_role', NULL) を挿入する必要があることを示しています。 2. ソース・サーバで次の SQL を実行します。 <pre>use master exec sp_configure 'allow updates to system tables' 1 insert sysusers values (-2, 16398, 16398, 'keycustodian_role', NULL) exec sp_configure 'allow updates to system tables', 0</pre> 3. sybmigrate -m setup を実行します。 4. ソース・サーバで次の SQL を実行します。 <pre>use master exec sp_configure 'allow updates to system tables' 1 delete sysusers where name = 'keycustodian_role'</pre>

CR #	説明
	<pre>exec sp_configure 'allow updates to system tables', 0</pre>
713631	<p>降順キーと並行してインデックスを作成すると、エラー 832 が発生して失敗する場合があります</p> <p>場合によっては、WITH CONSUMERS=number オプションを使用して並列モードでインデックスの作成を実行し、そのとき設定パラメータ enable functionality group がオンになっていると、Adaptive Server では次のエラーが生成されることがあります。</p> <p>エラー 832: オブジェクト <table name> の sdes に、論理ページ 2344 を保持しているバッファ 0x4e498f68 を配置できません。補助的に保持する sdes の中に余裕はありません。</p> <p>以下は、エラーを生成する可能性のあるコマンドの例です。</p> <pre>1> create index ind on tab(a desc,b, c) with consumers = 3 2> go</pre> <p>対処方法: これは、データの破損にはつながらない内部エラーです。このエラーが発生しないようにするために、トレースフラグ 549 を使用することもできます。</p>
713464	<p>降順キーと並行してインデックスを作成すると、エラー 1503 が発生して失敗する場合があります</p> <p>場合によっては、WITH CONSUMERS=number オプションを使用して並列モードでインデックスの作成を実行し、そのとき設定パラメータ enable functionality group がオンになっていると、Adaptive Server では次のエラーが生成されることがあります。</p> <pre>Msg 1503, Level 20, State 2:Line 1:Sort Internal Error: The Root page of right/left sub-index tree is missing. Command has been aborted.</pre> <p>以下は、エラーを生成する可能性のあるコマンドの例です。</p> <pre>1> create index ind on tab(a desc,b, c) with consumers = 3 2> go</pre> <p>対処方法: これは、データの破損にはつながらない内部エラーです。このエラーが発生しないようにするために、トレースフラグ 549 を使用することもできます。</p>

CR #	説明
696072	<p>一部の Cluster Edition 設定では、データベースまたはデータベース内のテーブルの複写中、まれに Adaptive Server 624 および 69x エラーが発生する場合があります。</p> <p>アクティブ/アクティブまたはアクティブ/パッシブのクラスタ設定では、RepAgent がクラスタの単一ノードでのみ実行されるように設定することができます。まれに、最新のイメージが別のノードにあるにもかかわらず、RepAgent がディスクにあるデータベース・ログ・ページの古いイメージを読み込むと、エラーが発生する場合があります。</p> <p>対処方法: Sybase では次の作業をおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ/パッシブ設定 - データとログ・ページが RepAgent と同じノード上にあるように RepAgent をアクティブ・ノードで実行します。 • アクティブ/アクティブ設定 - ログ・ページの破損と 69x エラーを防ぐために、16872 トレース・フラグで Adaptive Server を起動します。ただし、このフラグを使用すると、サーバのパフォーマンスが低下します。
695625	<p>次のメッセージが、Adaptive Server Enterprise に接続している Open Client アプリケーションによってレポートされる場合があります。</p> <pre>ct_send():network packet layer:internal Client Library error:State error:trying to write when connection is expecting a read.</pre> <p>このメッセージは、Kerberos メッセージの機密保持サービスがオンの場合、レポートされることがあります。</p> <p>対処方法: 機密保持サービスをオフにして、サーバに再度接続します。</p>
694912	<p>sybcluster ローカライズ・ユーティリティは、適切に機能せず、例外が発生します。</p> <p>\$SYBASE/SYBASE_ASE/locales ディレクトリにサーバ関連のロケール以外のファイルまたはディレクトリが含まれている場合、sybcluster ローカライズ・ユーティリティは適切に機能しません。関連のないファイルがロケール・ディレクトリにある場合、ローカライズ・コマンドは停止され、初期段階で例外が発生します。関連のないディレクトリがロケール・ディレクトリにある場合、charset 選択メニューは正常に表示されず、後のプロセスでローカライズが停止される可能性があります。</p> <p>対処方法: ローカライゼーションに関連のないファイルやディレクトリを \$SYBASE/SYBASE_ASE/locales ディレクトリに置かないでください。</p>
684556	<p>¥バージョン 15.7 で導入された select for update セマンティックは、データページロック・テーブルをサポートしていません。</p> <p>select for update のサポートは、データロー・ロック・ページのみが存在します。</p>

CR #	説明
627114	<p>Linux RHEL 5 では、hugepages が使用中のときに、一部の共有メモリがリリースされない。</p> <p>Linux カーネルのバグのため、Linux で hugepages が設定されている Adaptive Server では、Adaptive Server を停止するとメモリ リークが起きます (https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=593131 参照)。</p> <p>対処方法: このバグに対する Linux カーネルのパッチをインストールして、メモリ リークを解決します。</p>
595923	<p>transfer table には次のような 2 つの既知の問題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ignore_dup_key プロパティを使用しているユニークなインデックスを作成するときには、テーブルにすでに存在しているキーを持つローをインポートするとエラーが発生し、インポートはアボートします。これは、bcp 文または通常の insert 文を使用して重複キーが挿入される場合とは違います。そのような場合は、ローが破棄されトランザクションが続行するからです。 • insert トリガが存在していても、transfer table...from を通じてデータが挿入されたときには、そのトリガは起動されません。 <p>対処方法: なし。</p>
589269	<p>Adaptive Server が起動時に応答しなくなることがある。</p> <p>インメモリ・データベース機能またはリラックス持続性データベース機能を使用している場合、Adaptive Server は、起動時にライセンス・サーバにアクセスできないとタイムスライス・エラーに陥る可能性があります。</p> <p>対処方法: Adaptive Server がライセンス・サーバにアクセスできるようにしてください。</p>

CR #	説明
578921	<p>Linux SUSE Enterprise 11 システム上で、ネットワーク情報サービス (NIS) からユーザー ID およびパスワードを取得している間、Adaptive Server の設定は SEGV に失敗します。</p> <p>PCA-JVM を作成している間、Adaptive Server は、ネットワーク・セキュリティ・サービス (NSS) を使用して ID およびパスワードの情報を取得できますが、NIS は使用できません。</p> <p>対処方法: 次の方法のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /etc/nssswitch.conf で、取得順序を "compat" または "files NIS" のいずれかに指定します。 • Adaptive Server を起動するユーザーの ID およびパスワードをローカル・ファイル /etc/passwd および /etc/shadow に追加します。これによって、ID およびパスワードの情報がローカルで入手可能なことが保証され、NIS への問い合わせは不要です。 <p>ユーザー情報をローカル・ファイルに追加できない場合、ネーム・サービス・キャッシュ・デーモン (NSCD) がサーバのホスト・マシンで実行していることを確認します。NSCD は、この情報の NIS へ要求をディスパッチする前に調べた ID およびパスワードの情報のキャッシュを保持します。</p>
558020	<p>変換テーブル構文エラーで dsedit が失敗する。</p> <p>新しいサーバ・エントリまたはポート番号を入力しようとすると、dsedit ユーティリティが失敗して次のような解析エラーが表示されます。</p> <pre data-bbox="323 968 1176 1223">Warning: translation table syntax error: Unknown keySYM name: osfActivate. Warning: ... found while parsing ':<Key>osfActivate: ManagerParentActivate()'. Warning: String to TranslationTable conversion encountered errors. Warning: translation table syntax error: Unknown keySYM name: osfBeginLine. Warning: ... found while parsing ':<Key>osfBeginLine: ManagerGadgetTraverseHome()'</pre> <p>これらのエラーは、グラフィックスを表示する X サーバ・プログラムがキャッシュされていないか、デフォルトで環境に設定されていることを示します。</p> <p>対処方法: 環境変数 XKEYSYMDB を次のように設定します。</p> <pre data-bbox="323 1367 1041 1397">% setenv XKEYSYMDB "/usr/share/X11/XKeysymDB"</pre>
478875	<p>Adaptive Server プラグインで、接続されたインスタンスを削除できず、インスタンスが停止するとすぐに接続が失われる。</p> <p>対処方法: 削除するインスタンスを停止する前に、クラスタ内の別のインスタンスに接続します。</p>

マニュアルの変更点

Adaptive Server でリリースされたマニュアルの更新情報、修正内容、変更点を確認してください。

- 『新機能ガイド、バージョン 15.7、ESD #2』、ハッシュベースの更新統計
『新機能ガイド』では、**update statistics** 設定パラメータの **hashing** について説明します。これは、ハッシュベースの統計を Adaptive Server が収集できるようにするものです。**hashing** オプションの値の範囲は次のとおりです。

- off - ハッシュを行わない
- on - すべてのカラムに対してハッシュを行う
- partial - 低いユニークな件数カラムに対してのみハッシュを行う
- デフォルト - off

このオプションに3つのパラメータが必要であることを示す例が、このマニュアルに記載されていません。

次は、ハッシュ・オプションを使用した **update statistics** の使用例です。

```
sp_configure 'update statistics hashing', 0, 'on'
```

- 『システム管理ガイド』 - **lock timeout pipe active**

lock timeout pipe active のデフォルト値と値の範囲について、Adaptive Server Enterprise 15.7 の『システム管理ガイド』に記述されていた内容は不正確です。このマニュアルでは現在、次のように記述しています。

デフォルト値は 1 (off) で、値の範囲は 0 (on)、1 (off) です。

正しい値は次のとおりです。

デフォルト値は 0 (off) で、値の範囲は 1 (on)、0 (off) です。

- 『システム管理ガイド』 - 特定の役割の **maximum failed logins** の設定

このマニュアルでは、役割の **maximum failed logins** を設定する例として、不正確な内容が記述されています。そこでは、次のような例が記述されています。

```
create role intern_role with passwd "temp244", maximum failed logins 20
```

正しくは次のようになります。

```
create role intern_role with passwd "temp244", max failed_logins 20
```

- 『システム管理ガイド』 - 特定の役割の **maximum failed logins** の設定

このマニュアルでは、役割の **maximum failed logins** を設定する例として、不正確な内容が記述されています。そこでは、次のような例が記述されています。

```
create role intern_role with passwd "temp244", maximum failed logins 20
```

正しくは次のようになります。


```
create role intern_role with passwd "temp244", max failed_logins
20
```

- 『システム管理ガイド』 - 特定のログインの maximum failed logins の変更
このマニュアルでは、ログインの maximum failed logins を変更する例として、不正確な内容が記述されています。そこでは、次のような例が記述されています。

```
alter login joe max failed attempts 40
```

正しくは次のようになります。

```
alter login joe modify max failed attempts 40
```

- 『システム管理ガイド』 - 特定の役割の maximum failed logins の変更
このマニュアルでは、役割に対するオーバーライドを削除する例として、または役割の maximum failed logins を変更する例として、不正確な内容が記述されています。"physician_role" に対する maximum failed logins を 5 に変更する例は、正しくは次のようになります。

```
alter role physician_role set max failed_logins 5
```

すべての役割の maximum failed logins に対するオーバーライドを削除する例は、正しくは次のようになります。

```
alter role "all overrides" set max failed_logins -1
```

- サードパーティへのライセンス供与の更新
サード・パーティ・ライセンスの詳細の最近の更新については、無料ダウンロードの条項ドキュメントを確認してください。ドキュメントは、次から入手できます。http://www.sybase.com/softwarelicenses/third_party_legal

追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、Sybase Product Manuals Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- (<http://sybooks.sybase.com/>) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/ Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF形式のドキュメントを表示または印刷するには、AdobeのWebサイトから無償でダウンロードできるAdobe Acrobat Readerが必要です。

注意：製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアルWebサイトから入手できることがあります。

サポート・センタ

Sybase製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通してSybase製品のサポート・センタまでご連絡ください。

Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

EBFとMaintenanceレポートは、Sybase Webサイト、またはSAP® Service Marketplace (SMP)からダウンロードしてください。使用する場所は、製品の購入方法によって異なります。

- Sybaseから直接、またはSybase認定再販業者から購入した場合
 - a) Webブラウザで<http://www.sybase.com/support>を指定します。
 - b) [サポート]>[EBFs/Maintenance]を選択します。
 - c) MySybaseのユーザ名とパスワードを入力します。
 - d) (オプション)フィルタ、時間枠、またはその両方を選択して、[Go]をクリックします。
 - e) 製品を選択します。

鍵のアイコンは、認可されたサポート・コンタクトとして登録されていないため、一部のEBF/Maintenanceリリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[My Account]をクリックして、「Technical Support Contact」の役割をMySybaseプロファイルに追加します。
 - f) EBF/Maintenanceレポートを表示するには、[Info]アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには、製品の説明をクリックします。
- SAPの契約に基づいてSybase製品を注文した場合
 - a) ブラウザで、<http://service.sap.com/swdc>を指定します。

- b) [Search for Software Downloads] を選択して、製品名を入力します。[Search] をクリックします。

Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、http://www.sybase.com/detail_list?id=9784 にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。

MySybase プロファイルの作成

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意：アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別し

追加の説明や情報の入手

で発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれません。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。 <http://www.sybase.com/products/accessibility>。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。